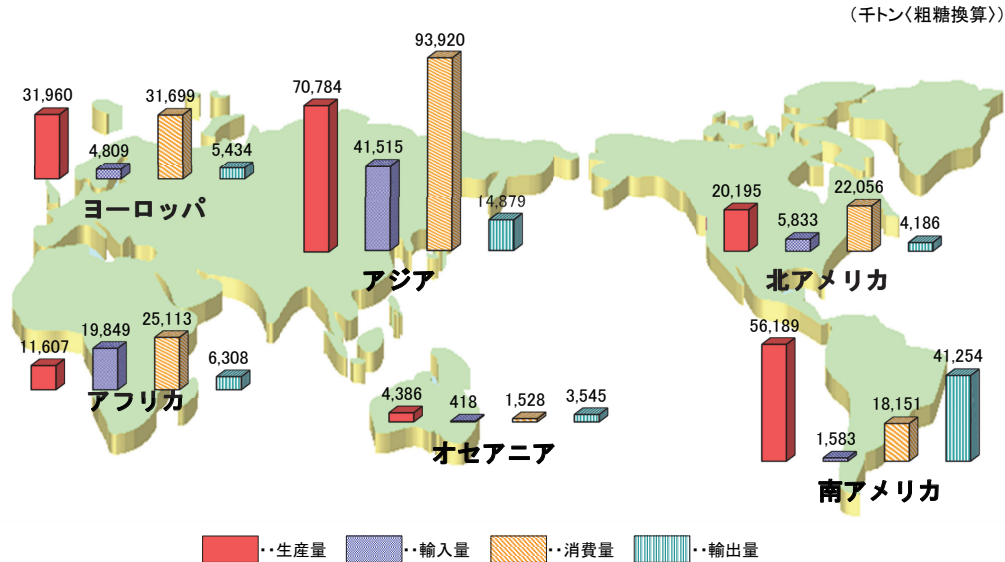


## 砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之

### 1 世界の砂糖需給（2024年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



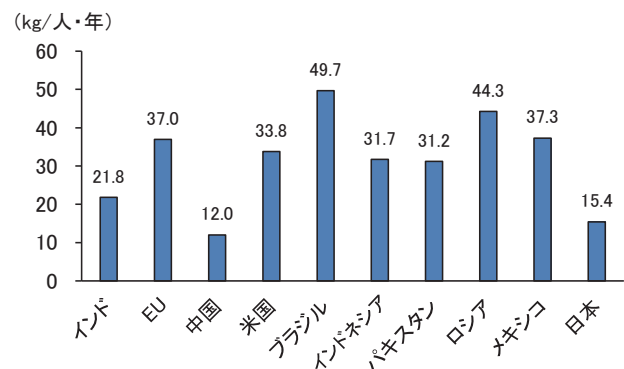
資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, March 2024」  
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

GlobalData UK Ltd.（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2024年3月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2023/24砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億9512万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれている（表）。生産量第1位のブラジルで大幅な増産となるほか、EUや中国などでは前年度の減産から回復が見込まれているが、同第2位のインドを筆頭にタイやパキスタンなどでは減産が見込まれている。

また、同年度の世界の砂糖消費量は、1億9247万トン（同1.4%増）とわずかな増加が見込まれている。EUや米国でわずかに減少するものの、同第1位のインドを筆頭に中国やブラジル、インドネシアなどで増加が見込まれている。

この結果、期末在庫率は前年度から横ばいの38.7%とされ、昨年度に続き40%割れが見込まれている。地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。また、主要消費国・地域の1人当たり砂糖消費量は図2の通りである。

図2 1人当たり砂糖消費量（2023/24年度）



資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, March 2024」  
 注1：年度は、各国の砂糖年度。  
 注2：EUには、英国を含む。  
 注3：主要消費量・地域上位9カ国・地域および日本を表示。

表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	80,620	186,387	61,458	182,717	61,489	84,259	46.1
2019/20	84,259	181,553	69,270	182,304	71,636	81,142	44.5
2020/21	81,142	181,671	66,752	184,750	68,183	76,632	41.5
2021/22	76,632	186,216	69,331	187,816	71,715	72,648	38.7
2022/23	72,648	191,758	70,396	189,775	71,586	73,441	38.7
2023/24 (2024年3月予測)	73,441	195,119	74,006	192,467	75,607	74,493	38.7

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, March 2024」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

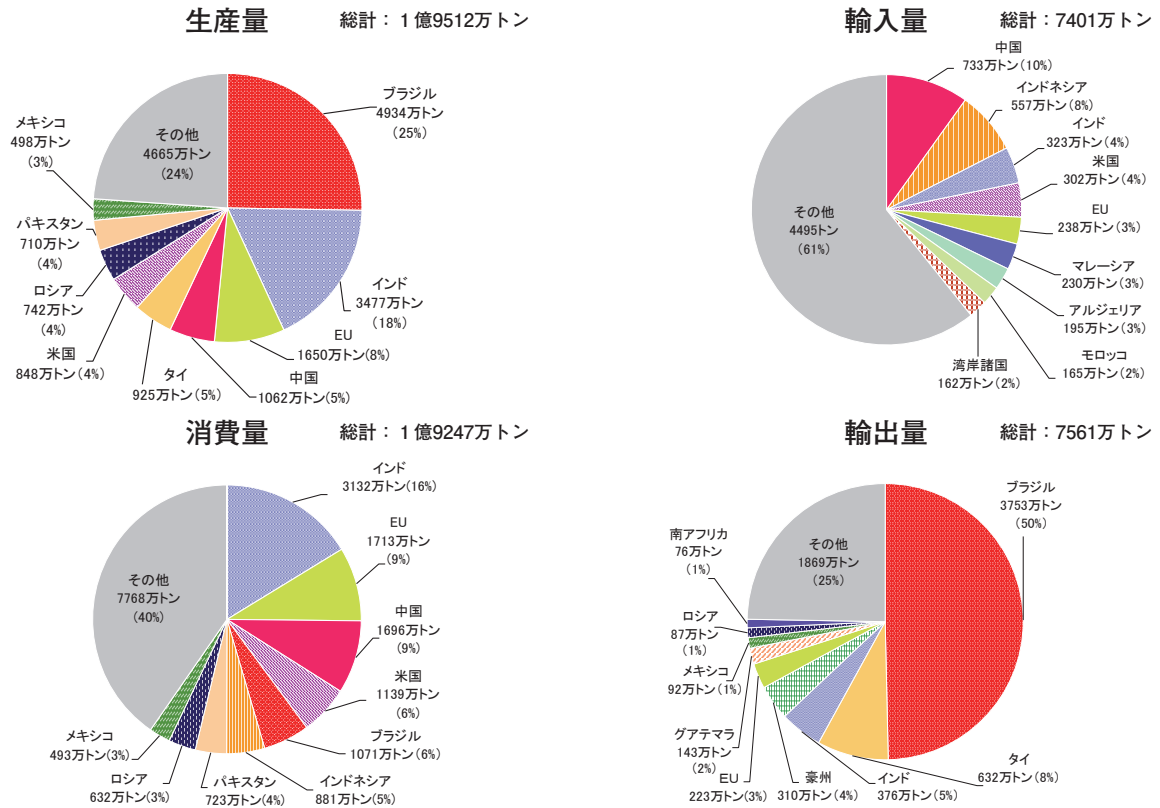
注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

## 2 主要国の砂糖需給（2024年3月時点予測）

図 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2023/24年度）



資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, March 2024」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。カッコ内はシェア (%)

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

## 【生産量】

ブラジルは、サトウキビの主産地である中南部が天候に恵まれたことで増産が期待されることから、4934万トン（前年度比24.2%増）と大幅な増加が見込まれている（図）。

インドは、モンスーンの到来の遅れや季節外れの大雨などによるサトウキビの減産を受け、3477万トン（同1.7%減）とわずかな減少が見込まれている。

EUは、雨天が続き、近年、主産地の多くで懸念されている萎黄病<sup>いおう</sup>（注）の発生が減少したことから、1650万トン（同5.4%増）とやや増加が見込まれている。

## 【輸入量】

中国は、世界的な砂糖価格の上昇などを背景に砂糖の輸入が一時停止され、一部の備蓄糖が市場へ放出されるなどの動きがみられたが、6月以降は輸入を再開し、733万トン（同24.7%増）と大幅な増加が見込まれている。

インドネシアは、生産量がやや落ち込んだものの、世界的な砂糖価格の上昇などにより、557万トン（同16.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

## 【消費量】

インドは、国内需要の高まりから、3132万トン（同4.1%増）とやや増加し、世界の砂糖総消費量の16%を占めると見込まれている。

EUは、1713万トン（同0.8%減）とわずかな減少が見込まれ、長らく砂糖需要を拡大させてきた中国は、1696万トン（同2.3%増）とわずかに増加するものの、EUの消費量をわずかに下回ると見込まれている。

## 【輸出量】

ブラジルは、インドやタイなど主要輸出国がいずれも減産見込みから輸出量を大きく減らすとされる中で、3753万トン（同29.5%増）と大幅に増加し、世界の砂糖総輸出の5割を占めると見込まれている。

タイは、収穫面積の減少や年初の乾燥によるサトウキビの減産などから、632万トン（同23.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

インドは、減産に伴う国内供給を確保するための政府による輸出制限などから、376万トン（同56.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

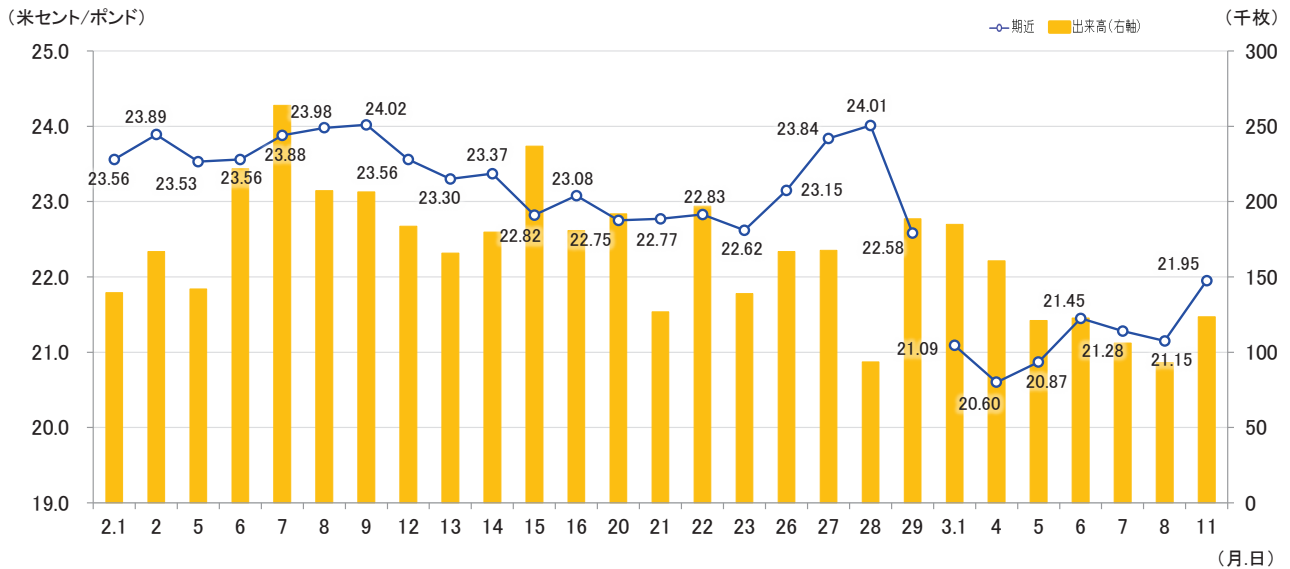
（注）アブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

### 3 国際価格の動向

#### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（2/1～3/11）

～3月限は22セント台で終え、5月限は21セント台から開始～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所  
注：期近3月限の値。

2024年2月のニューヨーク粗糖先物相場（3月限）の推移を見ると、1日は、原油安<sup>(注1)</sup>が重荷となり、1ポンド当たり23.56セント<sup>(注2)</sup>と値を下げた（図）。2日は、ブラジルの乾燥状態が新年度（2024/25年度）の砂糖生産量を抑えるとの予想から、同23.89セントと反発した。5日以降は、タイ製糖協会が同国の23/24年度の砂糖生産量の見通しを引き下げたことなどにより、9日には、同24.02セントに上昇した。12日以降は、23/24年度のブラジルの増産により、世界の在庫予測が引き上げられたことなどから、15日には、同22.82セントに下落した。16日以降は、ブラジルの天候の見通しやリアル安<sup>(注3)</sup>のほか、インドでは砂糖の国内需要確保のためにサトウキビのエタノールへの仕向けを制限したことから上下し、23日には、同22.62セントをつけた。26日以降は、インドの24/25年度の砂糖生産量の減少見込みや国際砂糖

機関（ISO）が世界の砂糖不足量を前回予測から2倍以上に拡大したことなどから、28日には、同24.01セントまで上昇した。29日は、リアル安により、同22.58セントまで下落し、3月限の納会を迎えた。

期近が5月限を迎えた3月1日は、3月限の決済のための受渡し価格を押し下げ、同21.09セントをつけた。4日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が23/24年度の増産を発表したことから、同20.60セントと2カ月ぶりの安値となったものの、5日以降は、インド製糖協会（ISMA）の減産見通しなどにより、6日には、同21.45セントに上昇した。7日以降は、欧州委員会による増産報告やブラジルでの降雨の予報などにより、8日は、同21.15セントまで下落したものの、11日は、ショートポジションをカバーするための買い戻し<sup>(注4)</sup>から上昇し、同21.95セントをつけた。

(注1) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注4) 将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っている状態。

## 4 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2024年3月時点予測)

### ブラジル

#### 2023/24年度(4月~翌3月)の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：846万ha(前年度比0.3%減)  
生産量：7億1821万トン(同18.4%増)

##### 【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：4934万トン(同24.2%増)  
輸出量：3753万トン(同29.5%増)

### 2023/24年度の砂糖輸出量は、増産と国際需要の高まりから大幅に増加する見込み

2023/24年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、846万ヘクタール(前年度比0.3%減)と前年度並みが見込まれている(表)。一方でサトウキビ生産量は、主産地の中南部地域が好天に恵まれたことや単収の増加などから、7億1821万トン(同18.4%増)と大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの増産見込みや好天に

よる順調な収穫作業などを背景に、4934万トン(同24.2%増)と大幅に増加し、過去最高水準に達すると見込まれている。

砂糖輸出量は、引き続きエルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念や国際市場での需要の高まりが期待されることから、生産量の増加を背景に3753万トン(同29.5%増)と大幅な増加が見込まれている。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

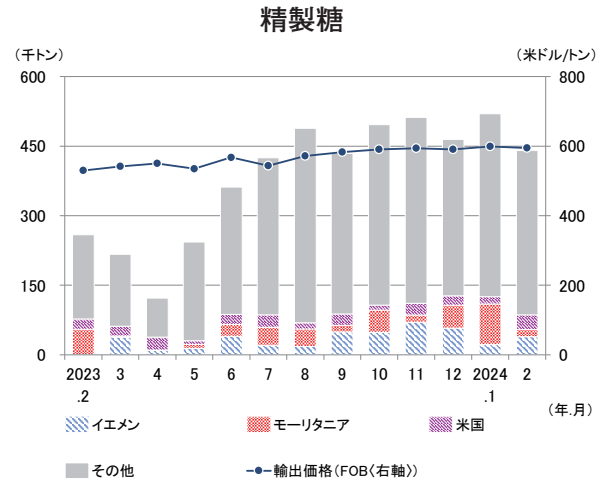
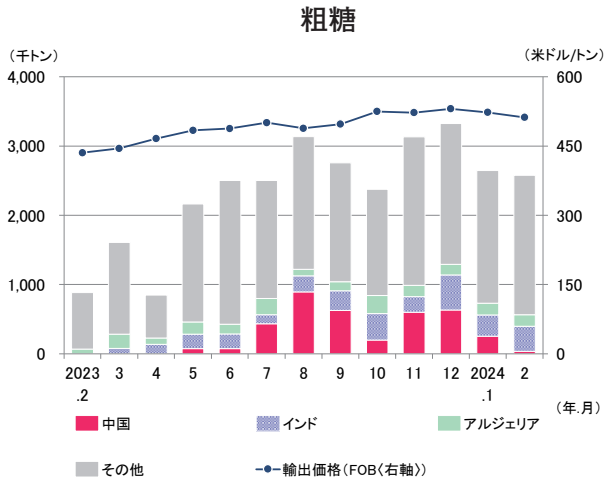
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (2月予測)	2023/24 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,455	8,455	▲0.3%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	718,208	718,208	18.4%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	49,500	49,340	24.2%
	輸入量	6	5	2	3	5	2.5倍
	消費量	10,916	10,712	10,551	10,710	10,710	1.5%
	輸出量	34,042	27,093	28,985	37,044	37,533	29.5%
	期末在庫量	3,761	3,581	3,766	5,515	4,868	29.3%
期末在庫率	8.4	9.5	9.5	11.5	10.1	0.6ポイント増	

資料：GlobalData UK Ltd.「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」  
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。  
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：522万ha（前年度比4.1%減）  
 生産量：4億3908万トン（同3.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3477万トン（同1.7%減）  
 輸出量：376万トン（同56.5%減）

2023/24年度の砂糖輸出量は、減産と国内供給の確保により大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、522万ヘクタール（前年度比4.1%減）とやや減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるウッタル・プラデーシュ州で前年を上回っているものの、同じく主産地であるマハラシュトラ州では降雨の遅れがサトウキビの成長に影響を及ぼしたことから、4億3908万トン（同3.7%減）とやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、同国政府が砂糖への仕向け量を優先させるため、サトウキビ由来のエタノール生産を

制限したことを受けて、前回予測からさらに上方修正されたが、マハラシュトラ州でのサトウキビの減産などにより、3477万トン（同1.7%減）とわずかな減少が見込まれている。同国政府はエタノール生産の制限を補完するため、エタノール原料として糖みつの利用促進に向けて、24年1月中旬に糖みつ輸出に対し50%の関税を導入した。

砂糖輸出量は、砂糖の減産見込みに加え同国政府による輸出制限により、376万トン（同56.5%減）と前年度の半分以下の水準となる大幅な減少が見込まれている。



表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (2月予測)	2023/24 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,819	5,222	5,441	5,216	5,215	▲ 4.1%	
サトウキビ生産量	415,221	481,599	455,898	440,283	439,083	▲ 3.7%	
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,389	34,062	▲ 1.7%	
	輸入量	1,037	427	1,687	3,233	91.6%	
	消費量	28,679	29,516	30,078	30,996	4.1%	
	輸出量	8,538	12,468	8,646	3,723	▲ 56.5%	
	期末在庫量	7,971	4,973	3,325	5,901	6,252	88.1%
	期末在庫率	21.4	11.8	8.6	17.0	17.8	9.2ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2024」

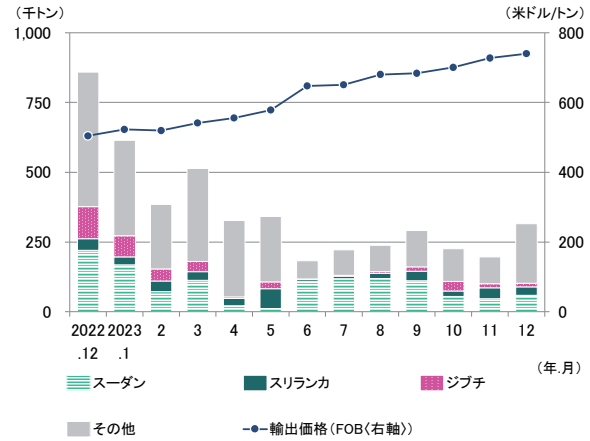
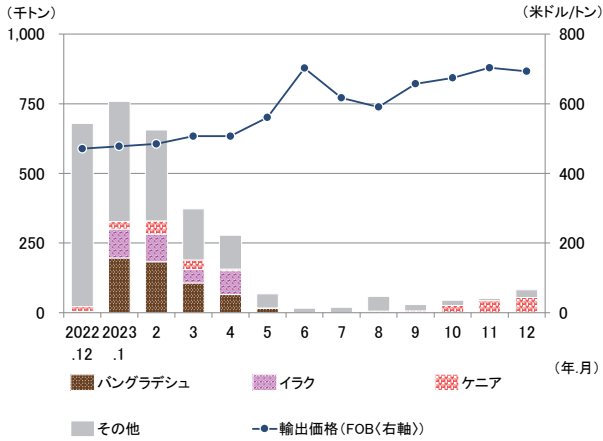
注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖

精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

## 2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

## 【てん菜】

収穫面積：144万ha（前年度比3.3%増）  
生産量：1億939万トン（同9.8%増）

## 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1650万トン（同5.4%増）  
輸出量：223万トン（同2.1倍）

### 2023/24年度のてん菜生産量は降雨による影響が懸念されるものの、かなりの程度増加する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、EU最大のてん菜主産地であるフランスで減少が見込まれる一方、トウモロコシや小麦と比較して、てん菜の収益性が高いことなどから、ポーランドやスペインで作付面積の増加が見込まれることで、144万ヘクタール（前年度比3.3%増）とやや増加が見込まれている（表）。てん菜生産量は、北西ヨーロッパ地域の大部分で適量の降雨と日照に恵まれ、作柄の見通しが改善されたことから、1億939万トン（同9.8%増）とかなりの程度の増加が見込まれている。ただし23年12月に、てん菜生産の盛んなビートベルト<sup>（注）</sup>全域で平年より多い降雨が観測され、洪水が発生している地域もあることか

ら、てん菜収穫量の減少や収穫の遅れが懸念されている。

砂糖生産量は、萎黄病の影響が限定的との見通しやバイオエタノールに利用するてん菜の減少などから、1650万トン（同5.4%増）とやや増加が見込まれている。

砂糖輸入量は、砂糖生産量の増加が期待されることやウクライナからの輸入を制限する国があることなどから、238万トン（同27.7%減）と大幅な減少が見込まれている。

砂糖輸出量は、砂糖生産量の増加などを受け、223万トン（同2.1倍）と18/19年度の水準まで回復すると見込まれている。

（注）フランス北西部や英国南部からポーランドやリトアニアにかけて広がるてん菜栽培に適した地域。「シュガーベルト」とも称されている。

表 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (2月予測)	2023/24 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,474	1,454	1,399	1,442	1,444	3.3%	
てん菜生産量	98,499	111,391	99,597	109,007	109,388	9.8%	
砂糖	生産量	14,711	17,153	15,656	16,318	16,499	5.4%
	輸入量	1,888	2,153	3,284	2,487	2,375	▲ 27.7%
	消費量	16,358	17,672	17,267	17,182	17,134	▲ 0.8%
	輸出量	1,262	1,312	1,077	2,110	2,232	2.1倍
	期末在庫量	1,327	1,647	2,244	1,758	1,752	▲ 21.9%
期末在庫率	7.5	8.7	12.2	9.1	9.0	3.2ポイント減	

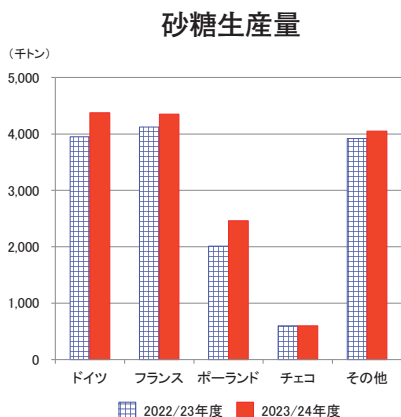
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

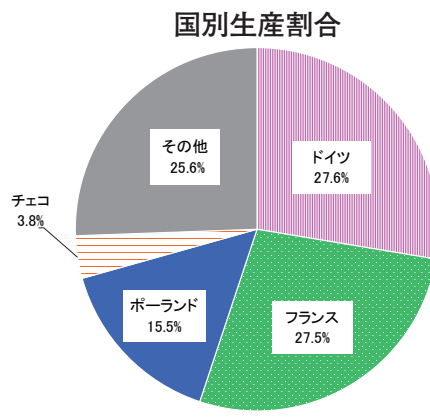
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。



(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2023/24年度) (2023年12月時点)



資料：欧州委員会  
注1：精製糖換算  
注2：2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度は予測値。



資料：欧州委員会

## 5 日本の主要輸入先の動向 (2024年3月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖<HSコード1701.14-110>および甘しや糖・その他<同1701.14-200>の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイである。2023年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が91.6%（前年比0.8ポイント増）、タイが8.4%（同0.9ポイント減）と、両国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

### 豪州

#### 2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比7.6%増）  
生産量：2976万トン（同8.7%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：415万トン（同3.5%減）  
輸出量：310万トン（同5.4%増）

### 2023/24年度の砂糖輸出量は、需要の高まりからやや増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比7.6%増）とかなりの程度増加が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるクイーンズランド州北部で季節外れの降雨の影響を受けて収穫が遅れたことで、2976万トン（同8.7%減）とかなりの程度減少が見込まれている。このような中、同州の生産者団体であるCANEGROWERSは24年2月、豪州サトウキビ生産者連盟とともに州政府に対し、23

年12月に同州へ上陸したサイクロン「ジャスパー」により被災した同州北部のサトウキビ主産地への支援を要請した。

砂糖生産量は、サトウキビ生産量がかなりの程度減産見込みとなる中で、エルニーニョ現象の影響とされる乾燥した天候によりCCS<sup>(注)</sup>の数値が高いため、415万トン（同3.5%減）とやや減少にとどまると見込まれている。

砂糖輸出量は、韓国、インドネシアおよび日本など主要輸出先での砂糖消費が堅調であることに加え、50年ぶりに輸出が再開された英国向けや、世

界的な砂糖の供給懸念による豪州産砂糖に対する需要の高まりなどから、310万トン（同5.4%増）とやや増加が見込まれている。

（注）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (2月予測)	2023/24 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	343	328	353	353	7.6%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,593	29,757	29,757	▲ 8.7%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,298	4,149	▲ 3.5%	
	輸入量	10	9	8	12	50.1%	
	消費量	1,055	1,051	1,052	1,017	0.8%	
	輸出量	3,377	3,453	2,942	3,144	5.4%	
	期末在庫量	744	358	669	795	669	0.0%
	期末在庫率	16.8	7.9	16.7	19.1	16.1	0.7 ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：152万ha（前年度比6.2%減）

生産量：8200万トン（同12.7%減）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：925万トン（同20.9%減）

輸出量：632万トン（同23.2%減）

### 2023/24年度の砂糖生産量と輸出量は、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる乾燥天候を考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加したことで、152万ヘクタール（前年度比6.2%減）とかなりの程度減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少に加え、エルニーニョ現象による天候不順がサトウキビの生育に大きく影響したことで、8200万トン（同12.7%減）とかなり大きな減産が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの減産やこれまでの収穫分のCCSの数値が低いことから、925万トン（同20.9%減）と大幅な減少が見込まれている。同国のサトウキビ・砂糖委員会事務局は、製糖工場に納入されるサトウキビに梢頭部しょうとうや葉などの収穫残渣ざんざが多く、今後、砂糖生産量の低下が懸念されるとして、収穫残渣の混入防止策を検討していることを明らかにしている。

砂糖輸出量は、砂糖生産量の減少を背景に632万トン（同23.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (2月予測)	2023/24 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,518	1,518	▲ 6.2%	
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	72,000	82,000	▲ 12.7%	
砂糖	生産量	8,046	10,638	11,693	8,316	9,245	▲ 20.9%
	輸入量	111	149	281	150	150	▲ 46.7%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,314	3,350	0.1%
	輸出量	3,981	8,085	8,229	5,539	6,321	▲ 23.2%
	期末在庫量	5,116	4,394	4,792	4,409	4,515	▲ 5.8%
	期末在庫率	67.6	38.2	41.4	49.8	46.7	5.3ポイント増

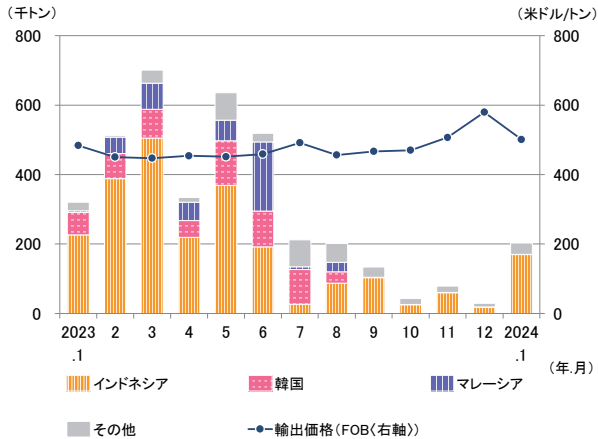
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

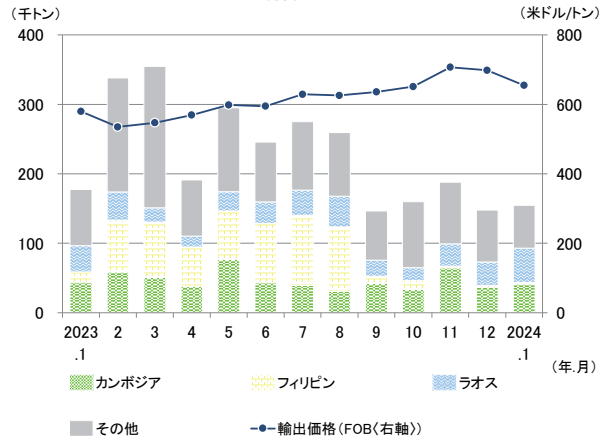
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。